



大阪市阿倍野区開業

脇 宗弘
先生

今回のアイテム

アダプトセクシヨナルマトリックスを用いて歯冠形態付与を容易な充填操作に

正中離開が原因による審美障害を解決するには、コンポジットレジンを用いた直接法が、歯質削除による生体侵襲を考えると第一選択ではないかと考える。

最終修復形態は診断用ワックスアップにより決定されるものではあるものの、実際の所それを口腔内においてフリーハンドで具現化するにあたっては、かなり困難な操作となる。

特にコンタクトポイントより歯肉側の形態付与においては、審美的成功を決定する重要な箇所であり、的確な築盛操作を行うには、アダプトセクシヨナルマトリックスは大変有用な製品である。

マトリックス自体の長さや湾曲度合いも2種類ずつ用意されており、症例に合わせて使い分けることにより、歯冠形態にマッチした豊隆を与えることが出来る優れたものであると感じている。



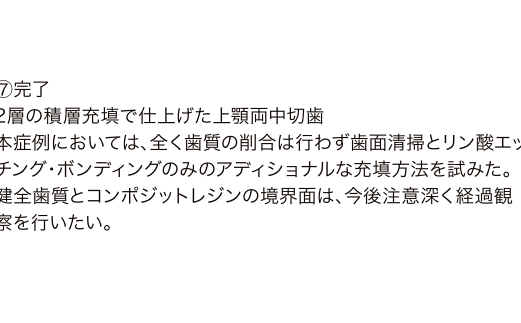
②ホワイトニング後
ホームとオフィスの併用により患者固有の歯の色調の改善を先に行った。



④術中
診断用ワックスアップよりシリコーンインデックスを作製し、これを基準として歯冠幅径とコンタクトポイントを付与する。



⑥術中
切端側の形態修正・研磨にはオブチディスクを用いた。



⑦完了
2層の積層充填で仕上げた上顎両中切歯
本症例においては、全く歯質の削合は行わず歯面清掃とリン酸エッチング・ボンディングのみのアディショナルな充填方法を試みた。健全歯質とコンポジットレジンの境界面は、今後注意深く経過観察を行いたい。



①来院時
患者は正中離開による中切歯間の空隙の封鎖と色調の改善を主訴に来院された。



③術中
診断用ワックスアップよりシリコーンインデックスを作製し、これを基準として歯冠幅径とコンタクトポイントを付与する。



⑤術中
コンタクトポイントより歯肉側をアダプトセクシヨナルマトリックスを用いてペーストレジンを築盛する。

